

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市鹿野児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・ 令和3年度 18,071人（前年度比 106.0%） ・ 令和2年度 17,045人 ・ 令和元年度 22,537人	
	《事業》 ・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 40,995千円 (38,539千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、児童館地域運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

### 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

### 三 評価総括

#### 《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》

コロナ禍のなか、「笑顔・笑声あふれる児童館」をスローガンに、感染対策に十分に配慮しながら工夫・改善し、利用者に安心して楽しんでもらえるような児童館運営を心掛けた。職員も明るく優しい笑顔を見せることなく、見守り・行事・活動の支援に取り組んできた。光触媒コーティング(8月)や顔認証サーマルカメラ導入(10月)など、これまで以上に予防対策・注意喚起に努めて、室内換気・館内消毒・遊具消毒等を徹底的してきた。乳幼児親子対象事業は、どの事業においても早くから参加申込が殺到し、キャンセル待ちが出るほどの人気があった。お話のポケット、たのしくらぶなどの小学生対象事業も内容を工夫して楽しく行った。地域交流のできる夏まつり、児童館まつり、青空児童館の代わりとして、児童クラブ主体で、ミニ緑日ごっこ、おばけやしき、水遊び、かくし芸大会など、子どもが自ら企画・運営して大いに楽しむことができた。また、鹿野児童館の特色である「かめのこ工房」では、身近にあるもので創作活動等を行い、子どもたちのたくさんの笑顔を見ることができた。「かのっこ畑」でも大きなダイコンを収穫、担いで持ち帰って保護者からも大好評！田植え・稲刈りも体験した。職場体験で来てくれた中学生に、一緒に遊んでもらったりお話劇をしてもらったりして小学生が大喜び。貴重な交流の場に。子育て支援クラブ「バンビ」は、町内会長さんと見て回る「まち探検」、七夕会、ハロウィンイベント、クリスマス会、ひな祭りなどの行事を精力的に主催・共催し、大きな地域交流の場となった。安全面では、防犯マニュアルの見直しとともに、そのための設備・備品の整備及び体制を強化した。自然環境面では、オオムラサキ、サンショウウオ、カブトムシの飼育をはじめ、多くの小動物とふれあう場、「鉱石・岩石」・「金魚」コーナーを設けるなど、「魅力ある・地域の皆に信頼される児童館」づくりを大いに推進した。

#### 《施設設置者（仙台市）による評価》

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置等の発令があったが、児童クラブに関しては、年間通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部は休止としていたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。

児童健全育成事業においては、高学年を対象とした登録制の「たのしくらぶ」を開催し、子ども達が自分達でやりたいことを話し合い、その意見が実現できる支援を行いながら、工作や季節のイベント・七北田公園への遠足など多彩な活動を実施した。中高生を対象とした「ぶら〜っとほーむ」は利用には至らなかったが、通りがかりに顔を見せに来たり職員と話しをしに来た時などは笑顔で迎え、ホッとする場、自己発揮できる場としての児童館への期待が持てるよう支援に努めている。

子育て家庭支援事業においては、申込制で音楽遊びを中心とした「ワイワイタイム」や手遊びや絵本などを楽しむ「お話しどんどん」を実施した。子育て支援クラブとの共催の季節の行事や、民生委員児童委員との共催で保護者が制作や情報交換ができる「お茶Berry!サロン」、子育て相談員の協力によるグループ相談会の「ホッとサロン」を継続して開催している。いずれの取り組みも子育て家庭の保護者同士や地域の方と交流を図りながら保護者がリフレッシュできる場として好評を得ており、子育て支援の役割を十分に果たしている。

地域交流推進事業においては、子育て支援クラブや町内会の協力のもと「まちたんけん」を開催して、地域の名所や歴史について教えていただき、交流を図りながら自分たちの住む地域への理解を深める機会となった。

放課後児童健全育成事業においては、夏にはデッキでの水遊びを取り入れたり、外遊びでは雲梯や鉄棒・登り棒など職員が「技」を披露するなど遊びの幅を広げながら運動能力向上に努めた。木登りや昆虫の飼育・小動物との触れ合いなど実体験を大切に活動を取り入れ、児童の興味関心を広げながら心身の健全な発達を促す取り組みを行っている。

#### 総合評価

S

#### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

##### 特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課